

## 「パソコン時代」

(2013)

66年入社した時には既に、本社の敷地の一角に「計算室」(後の情報システム部)という3階建ての一棟の建物があった。計算機械室には大きなロッカーの様な、巨大な磁気テープ機的大型コンピューター(ユニバック)が林立していて、2階・3階が計算室の職員、キーパンチャー達の事務室になっていた。この計算室の室長が社内きっての頭脳明晰男として有名であった、議論をしたり・説明をするのに全ての事象を数式に変換して話をする・・・という噂であった。未だコンピューターに対する認識も世間では殆んど無かった時代である、我々建築屋も計算用には算盤、計算尺、ある人はタイガー計算機をジャラジャラ廻していた・・・：。そういえば未だ電卓さえなかった。この計算室の計算機で何が計算されていたのか判らないが、毎月の給料明細書がコンピューターらしきもので印字されていたから多分社員の給与計算に使われていたのではないかと想像する。

それから数年後、若手の社員対象にコンピューターの社内研修会があった。個人が持つような汎用パソコンが未だ無い時代の事で、最近のパソコン研修とは違いコンピューターの動く原理だとか、プログラム言語の事など・・・を聴いた覚えがあるが、さっぱり判らなかった。

あれから10年後の78年の頃、計算室のお兄さんから、「建築で日影図・日影時間図なる事をやっているようだがお手伝いしようか？」との

お誘いを受けた。この日影図・日影時間図の作成については、繰り返しと・積み重ねの連続単純作業であり、頭を悩ましていたところの渡りに舟の話であり、共同作業を始めた。今でこそ手元のパソコンの建築CADを使えば簡単に出来る作業だが、当時は完成品の出力図を見てコンピュータなる物の威力に驚いた。これを何とか建築屋の皆さんに判って貰おうと、建築士会等を通じて少し宣伝してみたところ、案の定注文が来た。設計事務所は勿論だが、県や市の建築課からの依頼が多かった。そうかといって受ける我々としてはそんな商売など初めてだったから原価計算もしておらず、適当に10万前後のお値段で引き受けた。それよりもこの雑収入の分配と使い道について、計算室と、我々建築課の分配方法もはつきりせず、暫くの間途方にくれた覚えがある。

90年代に入り、世の中はまさにパソコン万能の時代となり、会社内でのOA・IT化も急速に進み始めた。若い者達のパソコンへの順応の良さを我々中年男は恨めしく横目で見ていた。社内では既に出張旅費や交通費などの申請は全社員が各部に備え付けのパソコンに入力するようになっていたが、僕はそれさえ出来ず、ましてや文章の打ち出し、図表の作成からメールの受発信などあらゆる書類を部の女子に任せっ放しにしていた。やろうと思えば簡単な事だったと思うが、頼めばやってもらえろという安易な環境と、パソコンアレルギーの同年代の同僚達も未だたくさんいるという安心感もありつついつい出遅れてしまった。

その内、遂には社員各人に個人用パソコンが配布され始めた。

96年さすがにこのままではまずいと思い近所の電気店で取り敢えずワープロ機を買い（SLALA）、その電気屋のおばさんに使い方を教わった。同時に教習書を徹底的に勉強し何とかこのワープロをマスターした。このワープロ機の威力には驚いた、単なる文章打ち出しだけではなく、「検索」、「並べ替え」、又「EXCEL」に似た高度な機能も備えていた。

その後、僕の家の中にパソコン（W・95）がやって来たのは97年の事である。皆に笑われそうだがこの年が僕のパソコン元年であった、この時からインターネット・メール等の一人前のパソコン生活が始った。1年前からワープロ機に慣れていたのでスナリとパソコン生活を始める事が出来た。ペンで文章を書く事から、キーを叩き、保存し、思うままに訂正し又再構成が出来るパソコンの驚異的な威力に圧倒させられた。それに我々建築屋から見れば図面のCAD化こそ設計の革命といえる程、脅威的な変革であった。

その後、W・97、Me、W・XP、W・7・・・と買い替え続けている。最近の、家電品の広告を見る度に、HDD容量、メモリー容量もギガやテラの単位に膨らみ続け、限らない技術の更新に追われっぱなしの毎日である。